

同窓生4人(共に80歳)能登の早春を楽しむ

↓輪島市内“お宿田中”の前で

高校同窓の男4人、能登半島の春を楽しもうと久々の旅行に出かけた。

長く続けてきた同窓生登山

私たち長崎西高第12回卒生有志は永らく同窓生登山を続けて、全国の山々を巡ってきた。

南は鹿児島・開聞岳から、北は北海道・羅臼岳まで。標高では152mの香久山(奈良)から3026mの乗鞍岳(北アルプス)まで。

いわゆる百名山も28座に登頂している。

高齢とコロナ禍で消滅寸前に

だが、この同窓生登山も高齢化には抗えず、年々参加者が減少、それに3年前からの「コロナ禍」によって、この能登半島旅行も延び延びになっていた。今回時節柄最少人数に絞った。



有難かった邑田さんの案内

私たちにとって、何よりも有難かったのは、石川県健康友の会副会長の邑田さんが案内役を引き受けて下さったことだ。邑田さんは輪島在住で、しかも輪島山の会の会長さんなのだ。この上ない名案内人の邑田さんにはレンタカーの運転までして頂いた。

山腹を彩る色とりどりの雪割草

↓エンレイソウ

3月22日早朝、前泊していた金沢市から特急バスで

↑オオミスミソウ “のと里山空港”に。ここで準備万端整えて下さった邑田さんの出迎えを受けて、スムーズに出発。

輪島朝市を見て、猿山峠に

10時には輪島に着いて朝市を巡り、海士(あま)町や船着き場など

↓キクザキイチリンソウ を案内してもらい、邑田さんおすすめの店で昼食後、お目当てのユキワリソウ群生地に。



疎林の中に咲く花々

12:40 猿山峠駐車場着。邑田さん先導で遊歩道に。猿山(標高332m)への急登を避けて、山腹に設けられた道をゆっくりと歩き出す。道の左側には崖地と斜面が、右側には急傾斜の斜面が海まで続いており、そのいずれもが落葉樹の疎林となっている。そしてその林床に点々と小さな群れで花々が咲いている。

枯葉の中のスプリング・エフェメラル

白やブルーで少し大きいのはキクザキイチリンソウ(キクザキイチゲ)、ピンク、白、紫、模様入りなど変化の多いオオミスミ



ソウ、白くて可愛いスハマソウなどが「雪割草」と呼ばれる植物たちだ。加えて各種のスマレ、変わった形のエンレイソウ、オウレンなど。

こうした早春の可憐な植物たちは“**スプリング・エフェメラル**” (春の短い命⇒春の妖精)と呼ばれている。

小さい花たちの生き残り戦略

これらの植物たちは、雪の下で春を迎える準備をし、他の植物が芽生える前に、そして木々が茂るまでの短い間に、春の陽ざしを独占しながら受粉を終え、夏までに栄養を蓄えて休息にはいるのだ。

そして、低温下でも活動する虫たちを呼び寄せるのに、よく目立つ美しい花を咲かせるのだ。



↑スハマソウ

翌日も邑田さん案内で能登半島を満喫

翌23日も邑田さんの案内で、漆芸美術館、キリコ会館(キリコ=切籠=は能登半島各地での「キリコ祭」で使用する巨大な灯籠)、白米千枚田、時国家、揚げ浜塩田、禄剛埼灯台などなど各所を回り、初春の能登半島を満喫させてもらった。

改めて邑田さんに深く感謝

多忙な時期に2日間も付き合ってくれた邑田さんに深く感謝したい。ありがとうございました。

3.9キロのトレッキング

↑オオミスミソウ

道は安全だが、起伏に富んでおり、各所に咲く花々をカメラにおさめたり、日本海を眺められるベンチで休憩しながらゆっくり歩いたが、計3.9キロのトレッキングは久しぶりに山歩きをした80歳の人たちにはしんどかったらしい。

特に終着点の深見集落に下る道は、ジグザグの急下降で、足を踏ん張る必要があり、ここでの踏ん張りが、その夜と翌日の筋肉痛として残ったようだ。

↓オオミスミソウ



ロシアのウクライナ侵略反対

ロシア軍によるウクライナ民間人の虐殺など、プーチンの蛮行が日々報道されている。彼は戦争犯罪人として国際社会で裁かれなければならない、と思う。

戦争と核はダメ。何よりも平和を

まだ寒く、しかもコロナ禍が蔓延する中での受難と逃避行。幾重にも襲い掛かる苦難。子供たちの身体とところに突き刺さるトラウマ。一日も早い平和を。

今、輝きを増す日本国憲法を守ろう!!